

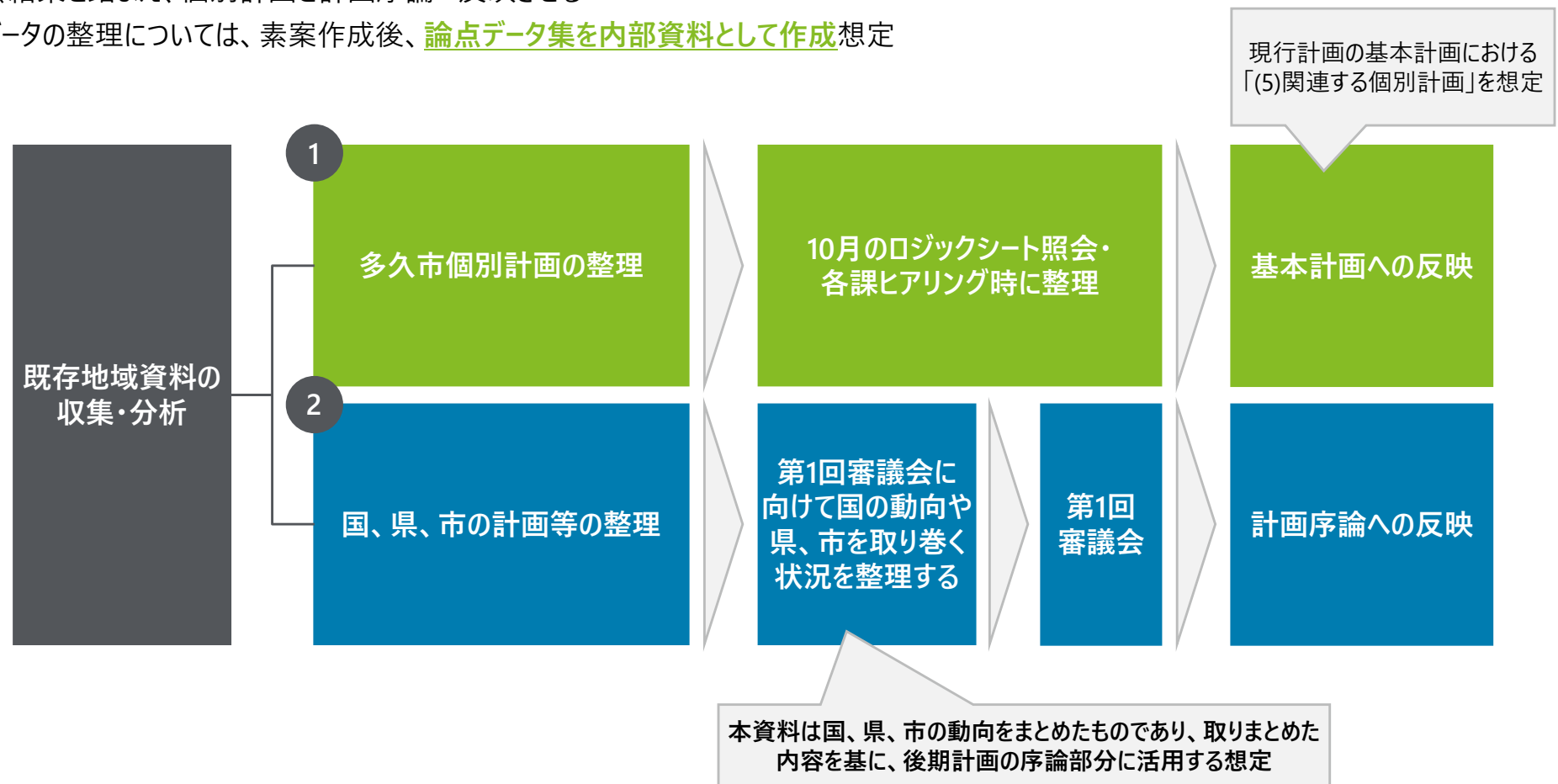


**第5次多久市総合計画
後期基本計画等策定支援業務**
社会潮流の整理

基礎調査（既存地域資料の収集・分析）について

計画への反映

- 仕様書項目ア内の「既存地域資料の収集・分析」について、①多久市の個別計画の整理と②国・県の動向の整理に分け、それぞれ各課ヒアリングや審議会結果を踏まえ、個別計画と計画序論へ反映させる
- 定量データの整理については、素案作成後、論点データ集を内部資料として作成想定



社会潮流の整理①

子育てしやすいまちの環境の整備

全国	佐賀県	多久市
✓ 少子化が加速する中、こどもを社会のまんなかに置き、こども視点で政策を推進する行政機関として2023(令和5)年4月にこども家庭庁が発足し、<u>妊娠・出産・子育て支援やこどもの居場所づくりなど、一体的な施策を推進</u>しています。	✓ すべての人が、様々な幸せのかたちを大切にしながら、安心して佐賀での生活、出会い、結婚、妊娠、出産、子育てができる環境作りが注目されています。 ✓ 男性も女性も家事や子育てに主体的にかかわり、職場や地域の人々も子育て世代を積極的に応援し見守っている、サポート体制が充実した社会を実現するため、<u>保育士等の人材の育成・確保や妊産婦や日常生活が困難な児童・家族への支援</u>が実施されています。	✓ 若い世代を中心に近隣自治体等への<u>転出超過傾向が強い状況</u>であり、子育て施策の充実などを通してまちの魅力を総合的に向上させ、人口流出に歯止めをかける対策を講じていくことが求められています。 ✓ 子育て環境の質を向上し、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、<u>出産期・不妊治療への支援、保育サービスの充実や各ライフステージにおける経済的な負担の軽減</u>を実施しています。
出典：こども家庭庁「令和7年版こども白書」	出典：佐賀県「佐賀県施策方針2023」	出典：多久市「第5次多久市総合計画」、多久市「第2期多久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」

社会潮流の整理②

災害に強いまちづくり

全国	佐賀県	多久市
✓ 近年の気候変動により自然災害の発生頻度は年々増加し、災害リスクは急速に上昇しています。 ✓ 自助・公助・共助それぞれの観点からの対策が重要だとされる一方で、今後発生が危惧されている南海トラフ地震など、大規模災害が起こった場合、国や地方公共団体の「公助」だけでは限界があることが懸念されています。 ✓ 国民一人ひとりが災害を「他人事」ではなく「自分事」として捉え、<u>自らの命を自分で守る「自助」、地域住民で助け合う「共助」の意識を醸成</u>し、地域で一体となって防災・減災に取り組む地域社会の構築が求められています。	✓ 命や豊かな暮らしを守るため、内水氾濫をはじめ自然災害等を未然に防止する対策が進んでいます。 ✓ 大きな自然災害や新たな感染症が発生した場合でも、全国1位の高い組織率を誇る消防団や医師会等との連携により、速やかに命を守るチーム佐賀・オール佐賀の体制が整えられており、<u>地域と行政が力を合わせて対応に当たり、被害や影響を最小限に抑える取り組み</u>が実施されています。	✓ 地震や大型台風、局地的な集中豪雨などによる大規模な自然災害の発生に備え、これまでの教訓を生かした防災・減災の観点から、インフラ面のみならず、避難体制の構築など、<u>市民と行政が連携して、防災対策に取り組んでいく</u>ことが求められています。
出典：内閣府「令和7年版防災白書」	出典：佐賀県「佐賀県施策方針2023」	出典：多久市「第5次多久市総合計画」、多久市「多久市地域防災計画」

社会潮流の整理③

デジタル社会の発展とまちづくりの進化		
全国	佐賀県	多久市
✓ 日本のAIシステム市場規模（支出額）は、2024(令和6)年に1兆3,412億円となり、前年より56.5%増加するなど、今後もAI技術の急速な発展が見込まれています。 ✓ 近年は文章・画像・音声・動画等を生み出すことができる生成AIが注目を集め、産業分野のみならず、教育、検索機能、デザインなど、人々の生活にも浸透してきています。 ✓ 新技術の発展・融合により経済発展と社会的課題の解決を両立する社会Society5.0の実現に向けて、デジタル技術やデータの活用で地域に新たな価値を創出するスマートシティの取組が推進されています。	✓ 佐賀をデジタルの実証フィールドとし、あらゆる分野でデジタルの活用を進め、どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を実現する取り組みである『デジタル実証フィールド“さが”』が注目されています。 ✓ デジタル関連企業の戦略的企業誘致、産業DXやGXの推進、成長産業の育成・集積などの取り組みを通じて、若者の県内定着・回帰、県産業を支える人材の育成・確保に取り組んでいます。	✓ 地域に合った形での未来技術の実装に向け、データや知識の活用、デジタル人材などの専門技術を持った人材の育成・確保等が求められており、ICT教育に力を入れるなど、全国に先駆けて先進的な取り組みを実施してきました。 ✓ ICTの活用により、産業をはじめ、まち全体の活性化・利便性の向上を図っていくことが求められます。 ✓ 今後も多様な主体との協働によるまちづくりを進めると同時に、持続可能なまちづくりに向けて、ICT等を活用し、地域課題の解決につなげるスマートシティの実現に取り組んでいく必要があります。
出典：総務省「令和7年版情報通信白書」	出典：佐賀県「佐賀県施策方針2023」	出典：多久市「第5次多久市総合計画」

社会潮流の整理④

環境にやさしいまちづくり

全国	佐賀県	多久市
✓ 世界の平均気温は2025(令和7)年に観測史上最高となり、甚大な自然災害による被害が更に深刻化することが懸念されています。日本では、従来の化石エネルギー中心の産業構造・社会構造をクリーンエネルギー中心へ転換する「グリーントランスフォーメーション」(GX)の実現に向けた取組、また2050(令和32)年のカーボンニュートラルの達成に向けた具体的な取組が進められています。 ✓ 地域で温室効果ガスの排出量削減に向けた<u>再生可能エネルギーの導入やグリーンテクノロジーの開発</u>が進み、<u>持続可能で活気のあるまちづくり</u>が進められています。	✓ 温室効果ガス排出量削減の取組の一環として、過度なマイカー依存から、「<u>歩く</u>」あるいは「<u>公共交通利用</u>」を積極的に取り入れたライフスタイルへの転換が推進されています。 ✓ 豊かな自然を未来につなげるため、「森・川・海はひとつ」との思いを広げ、県民協働による森・川・海的环境保全が推進されています。	✓ 低炭素社会・循環型社会の実現に向け、家庭や事業者に対する啓発活動を徹底するなど、資源の再循環やごみ減量化をさらに加速させ、<u>環境負荷の少ないまちづくりを推進していく必要</u>があります。 ✓ 廃棄物の減量化とリサイクル率の向上のために、今まで推進してきた3R運動（リデュース、リユース、リサイクル）に加え、もう一つのR（リフューズ）を加えた4R運動の推進と市民への啓発がされています。 ✓ 水質の保全のため、河川水やゴルフ場・事業所排水等の測定及び監視が行われており、測定結果を基に基準値を超える事業所等には指導を行い、改善につなげる取り組みが実施されています。
出典：環境省「令和7年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」	出典：佐賀県「佐賀県施策方針2023」	出典：多久市「第5次多久市総合計画」

社会潮流の整理⑤

誰もが自分らしく活躍できる社会の構築		
全国	佐賀県	多久市
✓ 社会構造の変化やデジタル社会の推進などにより、<u>ライフスタイルや働き方の多様化が進む</u>中、誰もが自分の望む形で暮らせる社会の構築が重要です。 ✓ 夫婦共働きの世帯が増加し、2024(令和6)年時点で女性の就業者数は10年前より345万人の増加となりました。育児・介護と仕事の両立や非正規雇用に関する課題がより一層重要になってきています。 ✓ 相対的貧困や不登校・ヤングケアラーの増加など、こどもを取り巻く課題も多様化し、一人ひとりの状況に合わせた支援や対策が必要です。 ✓ 障がいのある人が、個人の希望や能力、適性を十分にいかし、障がいの特性等に応じて活躍できる社会の基盤づくりに加え、<u>障がいのある人と共に働くことが当たり前の社会の実現に向けた取組</u>が進められています。 出典：男女共同参画局 「男女共同参画白書 令和6年版」、こども家庭庁 「令和6年版こども白書」、内閣府 「令和6年版 障害者白書」、厚生労働省 「令和6年版厚生労働白書」	✓ お年寄りや障害のある方、子育て・妊娠中の方など、みんなが自然に支え合い心地よく過ごせる、やさしさにあふれた佐賀県の実現に注力しています。 ✓ 国籍や民族などの異なる人々が、文化的背景や多様な価値観の違いを尊重しながら地域の一員として活躍する<u>多文化共生の社会の重要性</u>が注目されています。 ✓ 人々が地域の歴史や文化、自然、豊かな食、伝統など、唯一無二の素晴らしさに気付き、大きな誇りを感じるとともに、自発的な地域づくりが進んでいます。 出典：佐賀県「佐賀県施策方針2023」	✓ 多様化するライフスタイル・ワークスタイルに対応する働き方を推進し、<u>幅広い世代が活躍することのできる地域社会の形成</u>が進められており、情報通信基盤を活用したIT 関連産業等の誘致やクラウドソーシングワーカーの育成による<u>多様な人材の活躍促進</u>などの取り組みが実施されています。 ✓ 学校教育では、国際化に対応した人材育成の他、一人ひとりの個性や特性に応じた指導や就学支援など特別支援教育の充実も求められています。 出典：多久市「第2期多久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」

社会潮流の整理⑥

まちの未来を担う人材の育成

全国	佐賀県	多久市
✓ 近年の教育方針は、新型コロナウイルス感染症の流行をはじめ、少子化・人口減少や高齢化、グローバル化などによる様々な社会変化に対応し、大きく転換しつつあります。 ✓ 将来の予測が困難な時代において、未来に向けて <u>自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて持続可能な社会を維持・発展させていくことが重要</u>です。 ✓ 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方が重視されています。	✓ こどもたちに学びや様々な体験を通して佐賀の自然や歴史を感じ、志豊かな若者として佐賀や世界で活躍する場を設けるため、『唯一無二の誇り高き学校づくり』、『特色ある私立学校づくり』をはじめ、中高生の海外での挑戦や外国人児童生徒に対する支援が積極的に実施されています。 ✓ 県内の高等教育機関から多くの専門的で多様な人材を県内事業所に輩出するため、専修学校の支援や創意工夫による特色ある学校づくりと魅力の発信に取り組んでいます。 ✓ 教育DXの推進と学びを支える環境作りが着目されており、<u>デジタル技術を活用した課題解決力の育成</u>に取り組んでいます。	✓ 国際化や情報化の急激な進展によってめまぐるしく変化する21世紀の社会をたくましく生きるために、自ら主体的に問題を解決する力や判断力、表現力などを身につけた子どもたちが育つまちを目指して学校教育の充実が注目されています。 ✓ 2016(平成28)年度に市内全学校に学校運営協議会を設置し、<u>地域とともにある学校づくりを目指す、「コミュニティースクール」をスタート</u>しました。 ✓ 社会の情報化が急速に進展し、ICTは多様な学習のための手段として活用されてきており、これらを適切に活用した学習活動の充実は急務となっています。
出典：文部科学省「令和6年文部科学白書」	出典：佐賀県「佐賀県施策方針2023」	出典：多久市「第5次多久市総合計画」

社会潮流の整理⑦

文化・スポーツを通じたまちのにぎわいの創出

全国	佐賀県	多久市
✓ 全ての人々がスポーツの力で輝き、前向きで活力のある社会、絆の強い世界、豊かな未来の実現を目指し、スポーツ実施率の向上、幼児期からの運動習慣の形成、<u>パラスポーツの環境整備</u>など多様な施策が推進されています。 ✓ 総合的な文化行政を推進するため、文化芸術の創造・発展・継承と教育の充実を進めるとともに、芸術家等の育成や文化芸術を通じた<u>共生社会の実現、イノベーションの創造や国家ブランドの構築</u>に向けた施策が展開されています。 ✓ 全国各地の文化財の保存・活用、博物館の振興に加え、無形文化遺産の保護に関する取組等、様々な取組が実施されています。	✓ 人々が「する」「育てる」「観る」「支える」といった自分なりのスタイルでスポーツに関わっており、スポーツビジネスの創出など新しいスポーツシーンの創造が注目されています。 ✓ S A G A スポーツピラミッド構想を中心に、<u>スポーツや文化による新たな感動を生み出す環境作りが重視</u>されています。 ✓ 文化的・歴史的資産が大切に継承されるとともに、人々が多彩な文化芸術活動に触れ、それらの魅力や唯一無二の体験が国内外に発信され多くの入々を魅了し、新たな交流を生み出す取組が実施されています。	✓ 地域学習、文化・スポーツ環境を充実し、すべての市民が学び続け、<u>市民主導のスポーツ・文化交流活動、貴重な文化遺産の保存が実現できるまちづくり</u>を目指しています。 ✓ 文化活動の拠点である文化連盟、公益財団法人や各種文化団体との連携、文化遺産の保存と保護や情報発信の取り組みが実施されています。 ✓ スポーツ活動の中核となっている総合型地域スポーツクラブ「多久スポーツピア」の会員数は2014(平成26)年度から上昇していますが、今後は社会体育への移行、及び体制強化と指導者確保が課題となります。
出典：文部科学省「令和6年文部科学白書」	出典：佐賀県「佐賀県施策方針2023」	出典：多久市「第5次多久市総合計画」